

71. 京都府伊根町における重要伝統的建造物群指定後の舟屋の保存実態に関する研究
 -立石・耳鼻・亀山を対象として-

0910920019 石田倫子
 指導教員 市川尚紀 准教授

舟屋 生業 屋根形状 伊根町 重要伝統的建造物群

1. はじめに

京都府与謝郡伊根町(以下、伊根町)にある舟屋群は丹後半島の若狭湾に面した、他に類を見ない舟屋集落である。この集落は、日本海には珍しく南に開けた静かな入り江にあり、東、西、北の三方を山に囲まれている。2005年に、国の重要伝統的建造物群(以下、重伝建)の指定を受けている。写真1 伊根の舟屋漁村としては初めての重伝建である。また、保存地区に海(伊根湾)が含まれることも初めてであり、現在は約230棟の舟屋が現存している。この集落については伝統的建造物群保存調査報告書に詳しくまとめられている。



本研究では伊根町の6地区のうち亀山、耳鼻、立石の3地区を対象として舟屋の現状を調査し、2004年との比較をすることを目的とする。

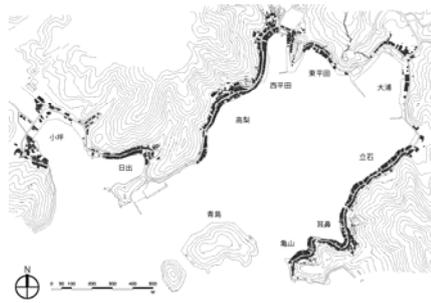


図1 舟屋群の配置

表1 調査概要

方法	アンケート調査	観察調査
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生業 ・居住年数、人数 ・現在の用途 ・用途変更の有無 ・道路建設の影響 ・舟屋景観保存に対する意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の階数 ・海側立面 ・屋根形状 ・屋根仕上げ ・外壁仕上げ ・構造
期間	2013年9月10日～13日	

2. 調査対象地の概要

調査の対象地の3地区は、伊根町の最東部に位置し、青島が防波堤の役割をしているおかげで、一年を通して潮の干潮差が約50cmと小さい。1931年から府道伊根港線の拡張工事が10年の歳月を費やして行われ、総延長約5kmにわたって幅員4mの道路が主屋と舟屋の間に敷設された。この道路幅員を確保するために舟屋や土蔵が海側へと移設された。明治13年より昭和25年までブリ景気によって、多くが瓦葺き屋根に建替えられ、その間多くの舟屋が二階建てと変わった。

伝統的建造物に亀山の主屋7棟、舟屋6棟、耳鼻の主

屋16棟、舟屋9棟、立石の主屋19棟、舟屋36棟が保存されている。

3. 結果と考察

調査報告書を2004年、今回行った調査を2013年として、その比較考察をする。

3.1 舟屋の数

3地区の舟屋の数は、2004年では亀山26棟、耳鼻30棟、立石60棟、計116棟である。2013年では亀山27棟、耳鼻27棟、立石54棟、計108棟を確認できた。つまり、亀山は1棟多く確認し、耳鼻は3棟、立石は6棟、計8棟が確認できなかった。それらは2004年から2013年までに消滅したと思われる。

3.2 生業

報告書によると、亀山には商店が1棟もなく、耳鼻は1棟変化なし、立石には雑貨屋が2棟から4棟に増加し、それらが約200～250mおきに位置している。

亀山には商店が1軒もないが、耳鼻に1軒あり、立石は雑貨屋が2軒、亀山、耳鼻、立石の3地区間では、雑貨屋が約200～250mおきに位置している。

現在は、亀山は1軒も店舗がなく、耳鼻は1軒、立石は4軒となっており、また店舗が2軒増えている。

また、少子高齢化のため年配の方が亀山は8棟、耳鼻は6棟、立石は10棟と一番多く年金で生活している。漁業としては、漁業をしているというより、趣味で行って嗜んでいるのが亀山7棟、耳鼻1棟、立石9棟、計17棟で2番目に多かった。若者にとって居住人数が少ない伊根町での勤務は難しいため、他地区勤務が亀山・耳鼻3棟、立石7棟、計3棟いた。または、漁業関係者で務めているのが亀山と耳鼻は3棟、立石は7棟で立石が1番多かった。

表2 舟屋所有世帯

表3 生業

	舟屋所有世帯				生業					
	舟屋所有世帯	漁業関係者	漁業関係者	漁業関係者	年金	漁業	他地区勤務	店舗	民間	漁業/民間
亀山	26	22	17	2	8	7	3	0	0	1
耳鼻	30	25	22	1	6	1	3	1	1	0
立石	60	54	44	2	10	9	7	4	1	0
合計	116	101	83	5	24	17	13	5	2	1

3.3 屋根形状タイプ

亀山・耳鼻の妻入りの棟数は26棟で変化なしだった。その他0棟に対して、平入りが同地区とも1棟ずつ存在する。

立石は妻入り34棟と3地区の中で1番多い。重伝建保存の基準に妻入りが条件となっている。立石の妻入りは、54棟が44棟になった。その他6棟に対して、平入りと

その他を足して 10 棟となる。これにより、54 棟より、10 棟減少したと思われる。

表 4 2004 年の屋根形状

	切妻・妻入り	他		妻入り	平入り	その他
亀山	26	0	亀山	26	1	0
耳鼻	26	4	耳鼻	26	1	0
立石	54	6	立石	44	7	3
合計(棟)	106	10	合計	96	9	3

表 5 2013 年屋根形状

3.4 舟屋の開口タイプの比較

亀山では、a は 1 棟のみ減少していた。b は板を取り付けて一部開放になっている舟屋が 2 棟、d が 1 棟あった。d は変化なかった。漁業の衰退や、木造の舟から FRP 製に変わり、大きさが拡大し、舟屋に入らなくなったこともあり、舟屋としての役割より、雨風や台風から凌ぐために板をはったりして、被害を軽減できるようにしている。

耳鼻は 9 棟減少しており、大幅に少なくなっているのが目立つ。b は 3 棟減少している。d は 1 棟から 9 棟に増えていた。舟屋としての機能よりも、現状を維持することを重視しているように思われる。e は 2 棟増加している。海側に出入りし、生活の一部であることが分かる。

立石は、a は、6 棟から 2 棟となり 4 棟減少している。2004 年の b は一番多かった。11 棟減少している。d は 7 棟から 11 棟へと 4 棟増加している。e は 8 棟減少している。e は d へ替わったと考える。

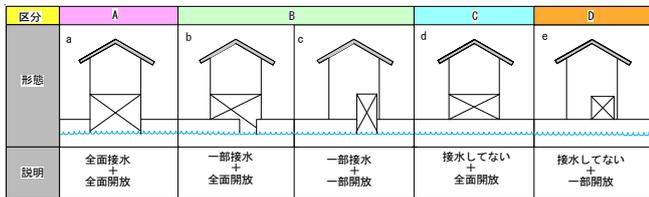


図 2 舟屋タイプの図

表 6 開口タイプ 2004 年

表 7 開口タイプ 2013 年

	A					B					C					D				
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
亀山	3	7	6	2	8	2	3	8	3	8	2	11	12	11	5	2	11	12	11	5
耳鼻	11	7	8	1	2	2	4	8	9	4	2	11	12	11	5	2	11	12	11	5
立石	6	22	12	7	13	2	11	12	11	5	2	11	12	11	5	2	11	12	11	5
合計(棟)	20	36	26	10	23	6	18	28	23	17	6	18	28	23	17	6	18	28	23	17

3.4 舟屋の用途

(1) 1 階の用途：亀山は、舟屋としては、20 棟から 8 棟に変わっていた。居室として、現在使っている世帯は、5 棟から 1 棟へと変わったが大きな変化は見られなかった。物置としては、10 棟から 6 棟であった減りつつあるが、季節の物を入れたりするので、季節に応じて使用しているように思われる。

また、一家に一台の車を持ち、買い物は隣町へ出かけ、夏は暑く冬は雪が積もるので、太陽の日差しや雨風から避けるためには、車庫へと改築した世帯が 6 棟から 0 棟へ減り、季節の強弱が激しい地域の割に棟数が少なくないように思われる。民宿としては、立石 1 棟から耳鼻 2 棟、立石 3 棟、計 4 棟に増加した。

耳鼻にある舟屋は、23 棟から 8 棟に、居住は 5 棟から

1 棟に、物置は 12 棟から 1 棟に、作業場は 7 棟から 0 棟に、車庫は 8 棟から 1 棟に、7 棟減少したが、民宿は、0 棟から 1 棟に増えた。

立石は、民宿を営んでいたのは 1 世帯しかみられなかったが、1 棟から 3 棟に増え、観光客の増加も物語るかのように思われる。物置は、27 棟から 7 棟に、作業場は 15 棟から 1 棟に、車庫は 10 棟から 2 棟に減った。

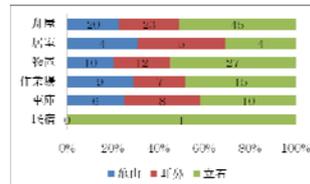


図 3 2004 年 1 階用途(棟)

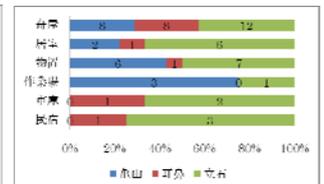


図 4 2013 年 1 階用途(棟)

(2) 2 階用途変更：3 地区とも居室としての使い方が 1 番多く、亀山では、14 棟であった。民宿は 0 棟だったが 1 棟に増えていた。居室として使いながら、一部の部屋を物置として使用したりする民家もあった。亀山は 25 棟から 14 棟、耳鼻は 25 棟から 14 棟、立石は、48 棟から 27 棟と減ったが、項目の中で 1 番多かった。

耳鼻では、民宿が 3 棟から 2 棟に 1 棟に減少していた。作業場は 0 棟で変化ない。居室としての使われ方が多い。立石では民宿が減少していた。作業場はない。物置として利用している年数は多かったが、みられなかった。また居室としての使われ方が多い。物置は 13 棟から 1 棟で減少あった。

耳鼻では、民宿が 3 棟から 2 棟に 1 棟に減少していた。作業場は 0 棟で変化ない。居室としての使われ方が多い。立石では民宿が減少していた。作業場はない。物置として利用している年数は多かったが、みられなかった。また居室としての使われ方が多い。物置は 13 棟から 1 棟で減少あった。

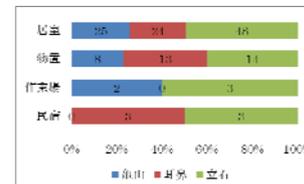


図 5 2004 年 2 階用途(棟)

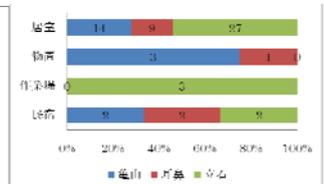


図 6 2013 年 2 階用途(棟)

4. 結論

2004 年から 2013 年で a は、14 棟減少していた。2004 年では b が 1 番多く存在していたが、2013 年では半分 18 棟減少しており、大幅に少なくなっているのが目立つ。a や b は c や d に変わったことがわかる。木造の舟から FRP 製に変わったことにより、舟の大きさが拡大し、格納できなくなり、舟屋としての役割より、雨風や台風から凌ぐために板をはったりして、被害を軽減できるようにし、保護する姿勢が強くなっていると考えられる。

参考文献:1) 京都府与謝郡伊根町教育委員会:伊根浦伝統的建造物群保存対象調査報告書,伊根町・伊根町教育委員会,2004.3 2) 井上悦子ほか 3 名:伊根町の舟屋に関する研究,日本建築学会近畿支部研究報告集,pp.441-444,1999 3) 松田剛佐:伊根浦(京都府与謝郡伊根町)の民家主屋間取り・構造・景観について,日本建築学会大会学術講演梗概集,pp.177-178,2004.8 4) 佐藤彦宇 他 1 名:舟屋集落における立面構成要素における研究-伊根町の事例-,日本大学生産工学部第 44 回学術講演会講演概要,pp.721-724,2011.3